

〔発行〕岩盤削孔技術協会 (Rock drilling Technology Association)



協会ニュース

第15号

平成14年8月1日発行

編集発行人／志村 肇 〒150-0031 東京都渋谷区桜丘町15-17(日本基礎技術株式会社内) TEL (03)3476-5721 FAX (03)5489-7822
 [ホームページURL] <http://www7.ocn.ne.jp/~rta/>

平成14年度通常総会

平成14年6月12日午後5時から虎ノ門パストラル・東京において、平成14年度通常総会が開催され、下記の議案について満場一致で可決いたしました。

- 第1号議案 平成13年度事業報告に関する件
- 第2号議案 平成13年度収支決算報告に関する件
- 第3号議案 平成14年度事業計画案承認の件
- 第4号議案 平成14年度収支予算案承認の件
- 事務局報告 役員改選の件
- [特別講演] 大口径岩盤削孔技術委員会委員長・矢作樞
 演題『大口径岩盤削孔工法の積算(平成14年度版)の改訂について』



総会三谷会長挨拶



▲国土交通省・総合政策局建設施工企画課 橋元課長祝辞



▲特別講演(大口径岩盤削孔技術委員会・矢作委員長)

理事会

平成13年5月8日

(1)平成13年度通常総会資料について
 平成14年1月16日

(1)平成13年度会計中間報告について

委員会活動報告

1. 運営委員会 6回

平成13年4月16日～平成14年2月18日

- (1)協会活動に関する企画・立案等
- (2)平成12年4月から平成13年3月までの4工法施工実績表の作成
- (3)施工機械技術資料、リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料の審議
- (4)協会ニュース、ホームページの審議 等

2. 工法・機械開発分科会 4回

平成13年4月16日～平成13年5月30日

- (1)従来の工法・機械調査報告書に関し、新たに技術的内容を盛り込んだ「大口径岩盤削孔工法・施工機械技術資料」を作成した。

3. リーダ式ケーシング回転掘削工法積算資料分科会 10回

平成13年4月25日～平成14年3月4日

- (1)「リーダ式ケーシング回転掘削工法の積算資料」の作成に取り組んだ。

4. 協会ニュース編集分科会 2回

平成13年6月12日、11月20日

- (1)協会ニュース編集計画決定の件
- (2)協会ニュース執筆担当者決定の件

5. 社日本建設機械化協会技術委員会参加 3回

平成13年12月25日～平成14年2月18日

- (1)大口径岩盤削孔工法積算図書改訂・編集の審議

成果品

- (1)平成12年4月から平成13年3月までの4工法施工実績表の発行(平成13年6月12日)
- (2)「大口径岩盤掘削工法・施工機械技術資料」の発行(平成13年6月12日)

広報活動

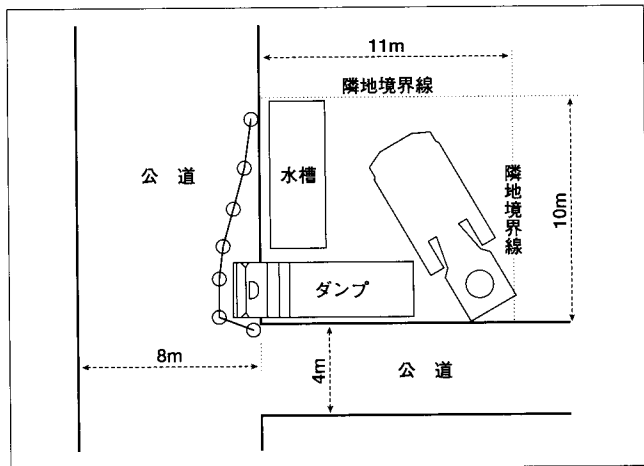
- (1)ホームページの開設(平成14年1月7日)
- (2)広告 1回:新聞「日刊建設工業新聞」平成13年5月特集号(土質・地質の基礎)
- (3)協会ニュース 2回:第13号、第14号

岩盤削孔工事施工事例の紹介

リーダ式ケーシング回転掘削工法（マルチドリル工法）による建替え新築基礎工事

1. 工事概要

敷地10m×11mでの建替え新築基礎工事である。地下水、隣接建築物の影響から既存地下壁と耐圧盤が撤去できないうえに、既存PC杭と同位置に新設の基礎杭を構築する必要があった。マルチドリル工法は機械がコンパクトであり、既存の既製コンクリートが存在しても場所打ち杭が施工できることで採用された。

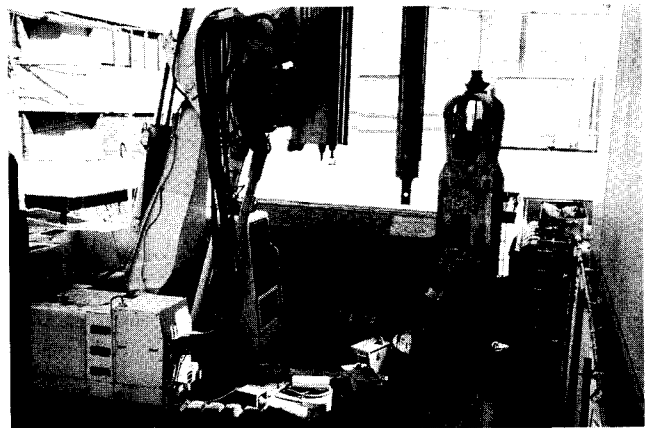


敷地と機械配置状況

- ①工事場所：東京都港区虎ノ門1-20-5
- ②企業者：財たばこ産業弘済会
- ③施工者：ジェイティ不動産(株)
- ④杭施工時期：平成11年8月22日～9月19日
- ⑤工事内容：地下既存耐圧盤をオールケーシング工法とカッタービットを併用し切削撤去。その後、ケーシングチューブを続けて押し込むことにより既製コンクリート杭を撤去し、

場所打ち杭を施工した。敷地内には、最低限必要な機材を設置しケーシングチューブは搬入出を繰り返し、鉄筋籠は必要時に搬入した。

- ⑥工事数量：杭径φ1,500mm 1本 掘削長22m
杭径φ1,300mm 4本 掘削長22m



マルチドリルによる施工状況

2. おわりに

今回マルチドリル工法の特徴を生かした施工例を紹介したが、本工法の最大の特徴として、全周回転式オールケーシング工法とアースドリル工法が1台の掘削機で併用施工ができるという点があげられる。そのうえ、掘削機が小型であることにより、従来では場所打ち杭の施工が不可とされた現場にも容易に対応できる。マルチドリル工法は、建設工事の多様化と都市再整備開発工事などにおいて、ますます制約されていく施工条件の中、環境に適応し、容易かつ経済的な場所打ち杭の提供を目指す。
(ソイルメックジャパン(株) 永山殖朗)

官公庁関係情報

『休暇改革は「コロンブスの卵」』

～12兆円の経済波及効果と150万人の雇用創出～

●12省庁が「ゆとり休暇」の取得を呼びかけ

平成14年6月25日、閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」の中で、休暇の分散化や長期連続化、取得時期の多様化が取り上げられるなど、休暇取得の促進は喫緊の課題になっている中、今般、内閣府、警察庁、総務省、法務省、外務省、財務省、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省の観光対策関係12省庁は、「ゆとり休暇」取得促進のための広報を共同で実施することになった。今後、幅広くPRを行っていくこととしている。

【事業の趣旨】

昨今の経済情勢から、景気浮揚がわが国の大きな課題となっている。景気浮揚のためには個人消費を活性化させることが必要であるが、その点では国民の潜在的ニーズが最も高い観光等レジャー・余暇活動ニーズを、実現・活発化させることが大きなポイントであるといえる。

旅行の一時期集中は、混雑や渋滞による経済活動の低下、自然・文化財・住環境等への負荷増などの問題も引き起こしているが、これらの問題を解消するうえにも、空いている時期に国民の旅行需要を分散シフトさせ、旅行需要を平準化させることも必要である。旅行需要の平準化が進めば、観光関連産業における繁閑激変が緩和され雇用の安定化や繁閑料金格差の縮小・解消、サービス向上が期待できるとともに、交流人口も安定的になり日常的観光交流の促進や、国土の均衡発展も期待できる。

そのためには、欧米先進諸国に比べてきわめて低い年次有給休暇の取得率を高め、「ゆとり休暇」の取得を促進することが有効である。「ゆとり休暇」の取得促進は、観光等レジャー余暇活動の機会の増加や需要の平準化をもたらす、国民の生き甲斐を増加させ、内需を拡大し、雇用拡大にもつながるものとして大いに期待できる。

平成14年6月7日に国土交通省・経済産業省・財団法人自由時間デザイン協会が発表した『休暇改革は「コロンブスの卵」』（休暇制度のあり方と経済社会への影響に関する調査研究委員会報告書）でも、年次有給休暇の完全取得が実現した場合、12兆円の経済波及効果と150万人の雇用創出の効果があることが明らかにされたところである。

そうした中で、これまでの経済財政諮問会議での議論や、平成14年6月25日閣議決定された「経済財政運営と構造改革に関する基本方針2002」も踏まえて、観光対策関係12省庁は、「ゆとり休暇」取得促進のための広報を実施することになったものである。

詳細は、国土交通省ホームページを参照ください。

●http://www.mlit.go.jp/kisha/kisha02/01/010625_3_.html

工法・新製品紹介

重錘式鋼管杭中掘併用
打込み工法

鋼管杭中掘併用打込み工法は、従来技術とともに、フライングハンマー方式として、本州四国連絡橋多々羅大橋下部工工事および関西電力舞鶴発電所揚炭棧橋工事で施工いたしました。転石層、岩盤層に対し鋼管杭・鋼管矢板等を打設するには、適切なるシステムと施工管理によって、きわめて効率のよいものになると考えています。

●工法の概要

従来工法は、鋼管杭を打込み中に硬質地盤（ $N>30$ ）や転石・岩盤層などに遭遇した場合、杭打ちと中掘り掘削を交互に繰り返して、各掘削機を入れ替えながら施工せざるを得ないので、工期、工費が増大し、経済的な施工が困難でした。そのため、前述した課題を解決できる新技術として、転石・岩盤層の掘削実績の多い重錘掘削機を油圧ハンマーと一体化させ、鋼管杭の中掘りと打込みの2工程を同時に行える重錘式鋼管杭中掘併用打込み機を開発し、施工しました。

当工法は、海上土木工事における転石・岩盤層に対する鋼管杭、鋼管矢板をはじめ、陸上工事においても十分な支持力が発揮できる各種の鋼管杭を施工する工法です。

●工法の特徴

- ◇本工法は、中掘りと鋼管打込みの2工程を1台の機械で同時に行えるので、鋼管打込み機と中掘機を入れ替えを必要とせず、従来工法に比べ、工期の短縮と工費の縮減が可能である。
- ◇転石・岩盤層掘削に実績のある重錘掘削機の機能を中掘装置

として使用している
ので、転石や岩盤が
存在する地盤に鋼管
杭を確実に打設する
ことができる。

◇打込工程を中掘工程に追従することにより、打込時の衝撃力を小さくできるので、従来工法に比べ振動、騒音を減少できる。

◇掘削機の入替えを必要としないため、従来工法に比べ機械設備ヤードが狭くてもよい。

◇三点式杭打機に装備した場合、ベースマシンはクローラタイプとなっているので、現場での移動が容易にできる。またリダーを傾斜することによって、15度の斜杭を施工することができる。

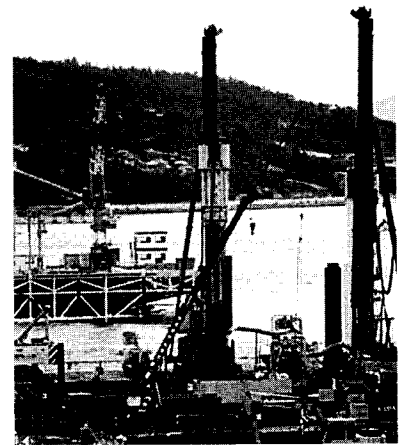
◇フライングタイプの場合、打込み時は自立状になるのでクレーンが有効利用できる。

●工法の適用工事

新技術は、海上、陸上の下記に示す基礎工の施工を対象としている。

- ◇シーバース脚柱根固め工
- ◇棧橋脚柱根固め工
- ◇多柱式基礎工
- ◇鋼管矢板ウェル基礎工
- ◇鋼管矢板護岸工
- ◇地すべり抑止杭工
- ◇場所打ち杭工

(利根地下技術株) 荻須一致



重錘式鋼管杭中掘併用打込み工法全景

User Interview

青山機工(株) 九州支店 新若戸作業所所長 西村 孝久氏

今回は、ケーシング回転掘削機（ $\phi 1,300 \sim \phi 1,800$ ）4台がフル稼働中のハザマ・西松・前田建設工業共同体-新若戸作業所の現場に、現場打杭・連壁・地盤改良・アンカー・重機土工・シールド・TBM工事と、都市部から山岳部まで幅広く営業展開中の青山機工(株)の西村所長を訪ねてインタビューしました。

記者：土木の工事に携わって何年になりますか？ また、印象に残っている工事はありますか？

西村：かれこれ20年近くになります。新卒で間組に入社し、3年半トンネル・ダム工事を経て、昭和61年より青山機工で基礎工事業部へ配属となり、オールケーシング工事、ディープパイプロ（地盤改良）、アンカー、杭工事と手がけてきました。中でも岐阜県の徳山ダムでCD工法によるケーシング回転掘削で仮締切部の速水壁を造成した工事が印象に残っています。 $\phi 1,300\text{mm}$ の柱列杭に鉄筋籠を建て込みコンクリートを打設する工事でしたが、川の中の工事で転石が多く、掘削には苦労しました。

記者：こちらの現場では4台の掘削機械が鋼管柱列杭工と鋼管

矢板中掘併用工の補助工法としてフル稼働しているようですが、ケーシング回転掘削工法における留意点として何があげられますか？

西村：当現場は、特に掘削精度（垂直管理値

1/200）の施工管理があげられます。他土質条件からボーリングの防止に関して、ケーシングの先行量、中掘速度に注意して施工管理を行っています。それから、岩盤が互層（砂岩・礫岩）をなしているためにビットの損耗が激しいなど、掘削管理に留意して的確な判断力と対応が大事と考えています。

記者：常日頃心がけていること、また今後の抱負をお聞かせください。

西村：現場の第一線で働いている専門工事業者として、お客様のニーズに対して誠実に取り組み、責任を果たすことを考えています。今後もいっそう安全・品質・環境管理に留意して、高度な施工管理を確立できるよう、日々努力したいと思っています。

記者：どうも忙しいところ、ありがとうございました。ますますのご活躍をお祈りいたします。

(青山機工(株) 西村一成)



西村孝久氏



出会う力

今回は事務局がご多忙な横山理事を本社にお伺いしてインタビューしました。

株式会社横山基礎工事 代表取締役社長 横山 弘介
岩盤削孔技術協会 理事



横山 弘介 (よこやま ひろすけ)
昭和16年10月30日生まれ。兵庫県育ち。昭和41年自動車整備工場を開業。昭和47年(株)横山自動車整備工場を設立、代表取締役社長に就任。昭和56年6月(株)横山基礎工事を設立、代表取締役社長に就任。

そんなある日、電力関連会社から「電柱を建てるため岩盤に穴を掘ってもらえないか」との依頼が入る。スクリー掘削を行うが、まったく歯がたたなかった。この出来事が、後の「岩盤削孔の横山」を生む。整備工場(株)横山自動車整備工場：現在24名)を基盤に、基礎工事(株)横山基礎工事：現在270名)を営む組織形態には理由がある。

■努力・強運

人生の転換期は大きな出会いとともに訪れる。今は亡き東邦金属(株)三谷部長に岩盤削孔について相談したところ、山のようなカタログの中から「岩盤を削孔するならこの機械はどうですか？」とアメリカのインガソール・ランド社の国内販売元である東京流機製造(株)を紹介された。

要請を受け同社の伊藤部長は、厳寒の夜、東京から佐用駅着の最終列車で自宅まで訪ねてこられた。明け方までダウンザホールハンマの特徴、性能について熱意のこもった説明を受けた。

その2週間後に、アメリカから第1号機を導入、愛知車両の中古建柱車を改造、採石場で試験削孔を行い、破碎されていく岩盤と驚異的な削孔スピードに目を奪われ、あらためてダウンザホールハンマの威力に圧倒され国内における岩盤削孔技術の躍進を確信した。

■好奇心・研究心

現場でトラブルが発生すると、いち早く出向くか、連絡を

■会社設立

南西部に播州赤穂、古くから出雲街道、因幡街道が交わる交通の要衝、佐用町で5歳のときから育った。美しい日本の山村風景が展開する町。また有名な朝霧が野山一面を覆い隠し静謐かつ雄大な美しさを醸し出す。

自動車整備とレッカー作業の傍ら、智頭線工事、中国横断道工事へのクレーンリース等を手がけ、民間車検工場の指定を受けるまで幾多の経営危機を乗り越え昼夜を問わずに働き続けた。

とりながら原因を迫りし作業方法を指示、機械の改善・改良を重ねることで新しい削孔技術の確立と、たゆまぬ整備で培った技術力で機械開発を行ってきた。今もその前向きな姿勢は変わらず、多くの社員に受け継がれている。

難工事から得たヒントをもとに新工法をどんどんと世の中に提供し、土木建築、あらゆる建設現場で得意の岩盤・転石・地下障害物の掘削を行い、構造物を創るため、また業界に対し少しでもお役に立てる会社になりたいと望んでいる。技術審査証明を取得した仮橋・仮栈橋『LIBRA工法』のシリーズ充実を図るため、海上工事に用150t~300t橋の開発を進めている。

姓名学による鑑定でも、“宿命の運・才能・生涯運・姓と名の調和”が大吉で、強固な意志力・優れた判断力・誠実温厚な人柄・敏感に反応できる感受性と柔軟性をもつ人。新しい分野で大成功する強運をもつ人とか。

■社員とのコミュニケーション

信仰心が厚く、毎朝、先祖にお参りをし、会社の敷地内のお稲荷さん(五穀の神)と、ごりんさん(地・水・火・風・空をかたどった石積み塔)にお参りをする。

社員に直接話しかけ徹底して議論する。間違っことは「私が間違っていた“スマン”」と素直に認め、わからないことは「どうなっているのか教えてくれ」と率直に尋ねることで全社員とのコミュニケーションを深めている。

朝は社員の顔を見るなり自ら「おはよう」の一言を欠かさず、常に「ご苦労さん」と声をかけるのが横山社長流の思いやりの表現。社員寮・社宅は40室(3LDK)2棟(鉄筋5階建、エレベーター付き)を設け、勤続10年目には夫婦で北海道旅行に、勤続20年目には海外旅行に招待し労いの言葉をかけられている。

■趣味・信条

信条は、「人と人との出会いを大切に」「困ったとき、いろいろな面で協力が得られ助けていただける人を1人でも多くもつ」「自分はだまされても決して人をだまさない(特に営業社員には徹底教育されている)」。

趣味は、温泉めぐり(特に秘湯)とゴルフを少々。年3回、社内ゴルフコンペがあるが、優勝よりブービー賞が多い腕前とか。社長の趣味は「仕事ですよ」といった社員評価もある。激務ゆえ健康にはくれぐれもご留意を。

(事務局 葭田誠作)



ここにこんな人が

海外出張

利根地下技術(株) 社長
岩盤削孔技術協会 副会長

奈良 清美

今回は奈良副会長の“海外出張体験談”をお送りします。



奈良 清美(なら きよみ)

昭和13年9月30日北海道生まれ。昭和32年(株)利根(旧利根ボーリング)に入社。昭和63年利根地下技術(株)に転籍。平成12年4月代表取締役社長に就任。

昭和32年、卒業と同時に(株)利根(旧利根ボーリング)に入社、工事部に配属された。次に技術開発部に配属され、同社製品の納入指導のため海外を専門に担当したが、ここでは韓国・台湾・中国・インド・英国・ザンビヤ・南アフリカ・ソ連・ベトナム・インドネシア・ペルー等に出張した際、出張にまつわる思い出を2~3紹介してみたい。

■ソ連出張(昭和57年1月)

ソ連は、第二シベリア鉄道の建設工事のためバイカル湖の北、200kmの山奥に出張した。ちょうど厳寒の時期にあたる12~1月であり、普段は零下30~40℃、まれに零下50℃というときもあった。寒冷地の出張ははじめての経験のため、どのような防寒対策をすればよいかかわからず、南極探検隊の事務所を訪問し、アドバイスを受け装備一式を購入した。これらの防寒具を着用してみると、ちょうどペンギンが歩いているようで異様な感じであり、特に、色が目立つように黄色や赤などの原色を使っているため、2~3人が揃って歩いていると注目の的であった。

しかし、これら南極用の装備はせいぜい零下20~30℃程度が対象であり、シベリアでは通用せず、帽子や靴は現地で貸してくれたものを着用した。

なお、外気は寒いが宿舎は暖かく肌着1枚で過ごせ、そのうえ通勤は木製のトンネル内を歩くので、外気に長い時間接することは避けることができた。

シベリアの寒さがどのくらいかを知ってもらうために、具体的な例を2~3紹介する。

- ①息を強く吹くと4~5m先まで白い線となってながれる。
- ②機械類に素手で触ると手の皮が剥げてしまう。
- ③小便等がすぐにツララ状態になることはなかったが、顔面は痛い。

食事は外国人とのことでぜいたくであった。黒パンが主食でキャビア、ウォッカは飲み放題であったが、私は酒も飲めないし、キャビアより日本のイクラのほうがおいしく感じたため、あまり感激はなかった。

現地の労働者とはコミュニケーションをとるべく、宿舎に遊びに来るよう招待したが、監視人が宿舎に入れさせず、外人との接触を断っていた。また、夜通し美人が監視しており、共産圏にきている実感を肌で感じるとともに、当時の労働者は罪人が多く、刺青を全身にしている者や、2mもある大男が相手であり、その怪力には驚かされた。

給料は厳寒とトンネル内作業という悪環境下のため、通常の2倍が支給された。また、ここではフィンランド式のサウナを体験したが、木の葉で体を軽くたたくのが特徴であった。

■韓国出張(昭和39年12月)

韓国にはたびたび出張したが、最初が一番印象深かった。昭和30年代後半、韓国は例年の干ばつに見舞われ、深刻な灌漑用水不足に悩まされていた。そのため、井戸の調査を依頼され、急遽、昭和39年12月に現地に渡り、現地技術者に作井を指導したが、掘削の基本である泥水(粘土)の効用から指導しなければならなかった。

当時の韓国は貧しく、藁ぶきの家が多く、現在のようなカラフルな屋根やビルも少なかった。飛行場からソウル市内までの間で思わず涙が出そうになった記憶がある。まだ朝鮮戦争の余韻が残り、夜間は外出禁止令が出され、週に何回かは空襲訓練を行っており、途中で車を降ろされビルの地下に避難したことも何度か経験した。ご飯は白米が食べられず、穀物が30%くらい必ず入っていたことが一番記憶に残っており、当然、寿司屋に行っても同様であった。

当時の大統領はパク氏であったため、彼の生まれ故郷である大邱の田舎まで調査に行ったが、田舎町の居酒屋に行った折、まだ日本語が禁止であったにもかかわらず日本の歌を聴かせてくれたのには驚いた。なお、貧しさのあまり盗難が多く、現場には夜通し留守番がつき、現場機材の管理を行った。また、スリが多く、われわれの仲間も見事財布をすられたので、どのくらい技術があるかを試すため、ズボンのうしろに小銭を入れバスに乗ったが、本人が気をつけていたにもかかわらず、見事に抜き取られてしまった。聞くとところによると、吊り輪に手をかけているだけでカフスボタンがとられたという、驚くべき技術であり脱帽した。

■インド経由北イエメン出張(昭和56年6月)

インドでの仕事は、日本語の通訳がついてくれたので問題はなかったが、インドからエジプト経由で北イエメンに行く際、英語の通訳をつけてくれたが、私は英語が苦手なチンプンカンブンであり、結局途中から一人旅となった。そのため、飛行場で悪戦苦闘し、何とかイエメン行きの飛行機に乗ることができたが、飛行機がボンコツで窓は壊れて外気が入るし、乗客と荷物が一緒であったり、着陸するまで不安は消えなかった。しかし、窓から見るイエメンの段々畑の美しさは強烈な印象であった。

イエメンでは直接目的地に着くと思っていたが、途中で1カ所寄り道をした。私は何の疑いもなく降りてしまったが、どうも様子がおかしいので確かめたところ、タイズというローカルの空港であった。もしそのときに気がついていなかったら、

たらと想像するだけで背筋が寒くなってしまいます。その後、無事にサヌアの飛行場に着いたが、右も左もわからず途方に暮れていると、町の人で、男は皆胸に短刀をぶらさげており、なんと物騒なところに来てしまったのかと後悔した。また、飛行場を出るとトヨタの2t車が来るので、何も連絡をしないのに、どうして私が来るのがわかったか不思議に思っていたところ、この町では、いたるところにトヨタの車があるではないか、あらためて日本の商社員のすごさを知らされた次第である。

何となく市内にたどり着き会社の人たちと会ったときには、一辺に気が緩み放心状態となってしまった。

この貴重な経験から、たとえ言葉がわからなくても、片言の英語でどこでも行けるとの自信がついた。現在、放映されている子供番組で「はじめてのおつかい」の大人版であったことを、この番組を見るたびに当時を思い出す。

数々の失敗談がありますが、紙面の関係で書ききれないのが残念である。
(利根地下技術㈱ 奈良清美)

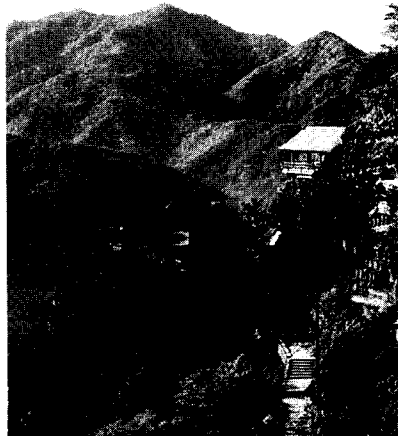
MY TOWN

見どころ食べ処

— 山形 編 —

山形の景観と料理

山形は自然に恵まれており、特に蔵王連峰は四季折々に変化に富み、エメラルドグリーンの水を湛えるお釜と、冬の樹氷はとても神秘的です。また、山形県は全市町村に温泉があり、露天風呂やそれぞれの温泉の効能が楽しめます。



山寺 (比叡山延暦寺別院)

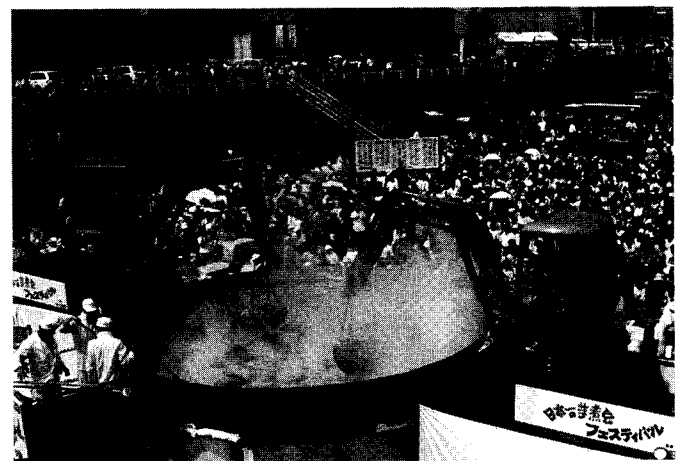
松尾芭蕉が「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」と詠んだ山寺(宝珠山立石寺)860年は、比叡山延暦寺別院で、慈覚大師円仁が平安時代後期に建立し、根本中堂(重要文化財)には、開山以来1142年の不滅の法灯があり、山頂の奥ノ院まで1,015段の参道脇に数々の支院が並び、さらに奥に建つ岩上の五大堂からの眺めは、一句詠みたい気分になります。また、山寺駅や芭蕉記念館からの景色は、山水画を見るようです。

出羽三山は、月山、湯殿山、羽黒山からなり、古来より修験道の聖地として崇められてきました。山頂に月山神社をもつ月山は、夏でもスキーをすることができます。

羽黒山は、古い宿坊の並ぶ随神門を入れてしばらく進んだ参道のかたわらに、国宝五重塔(1372年)があり、深い木立に囲まれて、そそり立つその端正なその姿には、深い趣があります。2,446段の石段は、樹齢数百年の杉並木を経て、大講堂、三神合祭殿、鐘楼などが建ち並ぶ大社殿です。山頂へは車で行くことができます。

果樹王国といわれる山形は、日本一のさくらんぼをはじめ、りんご、ラフランス、メロン、ぶどう、すいか、柿など、いろいろな果物を収穫することができます。

秋の風物詩に芋煮会(里芋、牛肉、こんにゃく、ねぎ、き



日本一の芋煮会(直径6mの大鍋、3万食)

のこ類)等があり、9月はじめの日曜日に、市内の馬見ヶ崎川河川敷で、直径6mの大鍋で3万食の芋煮会が行われます。休日ともなれば、いろいろなグループが鍋を囲んで親睦を深めます。村山地方では、そば街道といって、各店が味を競っています。上山橋下宿のこんにゃく懐石料理は、ヘルシー感で女性客の人気を集めています。

米沢鯉の甘煮や米沢牛、米沢ラーメンなど、庄内地方の冬には、どんがら汁が人々を温めてくれます(芋煮は、旅館、ホテル、飲食店でも満喫することができます)。

((有)マルイ基礎 辻清二)

編集後記

われわれの業界も準大手ゼネコンの倒産など、大変厳しい情勢となっております。各社のご健闘をお祈り申し上げます。

今回は㈱横山基礎工事の横山社長と利根地下技術㈱の奈良社長に登場していただきました。気力・体力・知力・速力の「バイタリティ」に満ちあふれた人生の一端を拝見させていただきました。私たちの生き方の参考にしてはいかがでしょうか。

多忙中、協力いただきました執筆者の皆様と、取材に協力いただいた方々に、厚くお礼申し上げます。(編集分科会)